

Caduceus Information

カデューシャス通信 Vol.27

(令和元年11月号)



(photo 総務課 本間重規)



シンボルマークについて

当院のシンボルマークは、平和と医術の象徴であるカデューシャス (Caduceus) のつえを頭蓋骨穿孔器 (ずがいこつせんこうき) に置きかえ、ヘビの顔は世界を知る意味で外へ向けています。翼の下にある  は脳神経外科 (Neurosurgery) のことを意味しております。

- ・ 第34回日本脊髄外科学会を終えて
- ・ 当院では災害時の断水の際に近隣の皆さまへ無償で飲料水を提供します
- ・ 新任ドクター紹介
- ・ 「八軒ふれあい夏祭り」が開催されました
- ・ スタッフ紹介
- ・ 外来診療体制

第34回日本脊髄外科学会を終えて

院長の小柳です。2019年は年号変更を含めていろいろな出来事がありましたが、個人的には、札幌で脊髄外科の全国学会を私が会長として開催したことが最も大きなものでした。その報告と、脳神経外科における脊髄外科について解説したいと思います。



2019年(令和元年)6月20-21日に、第34回日本脊髄外科学会を会長として札幌で開催しました。日本脊髄外科学会は、日本脳神経外科学会のサブスペシャリティ学会の一つです。主に脳神経外科医が集まって、脊椎・脊髄・末梢神経の外科治療に関する研究発表を行う学術集会です。今回は、2日間で513題の研究発表や講演が行われ、全国から656名が参加しました。海外からは、カナダのトロントから脊髄損傷の研究で有名なFehlings先生、オーストラリアのシドニーからは脊髄空洞症の研究で有名なStoodley先生に特別講演をお願いしました。二人とも脳神経外科医で、私の友人です。特にFehlings先生は、私がトロントに留学していた時からなので、20数年来の友人です。今回の学術集会のテーマは、「Spinal Surgery as a Science 科学としての脊髄外科」としましたが、



が、お二人とも基礎研究から臨床まで、まさにテーマに沿った最新の知見をお話してくれました。この他にも、韓国からは、私の知り合いの脳神経外科の教授3名がシンポジウム演者として参加してくれました。2日間の学術集会の翌日は、サテライト企画として、若手の脳神経外科医を対象とした教育セミナー、一般市民対象の市民公開講座が開催されました。学術集会の前日には各種委員会や理事会などの会議があるため、実質4日間の会期でした。

学会終了後の話ですが、Stoodley先生は、この翌週に米国バッファローで脊髄空洞症の国際的な研究会を主催するため、シドニーに帰らずまっすぐ米国に向かいました。実は、私もこの米国の研究会に呼ばれており、翌週の外来終了後にバッファローへ急いで飛んで、脊髄空洞症のお話をしてとんぼ返りで戻ってきました。自分の主催する学会終了直後だったのでさすがに疲れましたが、この2週間は国内外の知り合い達と交流し、とても有意義でした。学会開催に尽力していただいた皆様には深く感謝いたします。

ところで、脳神経外科医が脊椎・脊髄・末梢神経の手術を担当することは、日本ではあまり周知されていないのかもしれませんが。日本の脳神経外科医による脊椎脊髄外科の歴史と現況を簡単に紹介しましょう。日本で最初の脊髄手術は、1905年(明治38年)に福岡の大学病院で行われた脊髄腫瘍摘出術でした。この時代は、脳神経外科はまだ存在せず、脳の手術を含めて一般外科の先生がすべてを担当していました。1948年(昭和23年)になって脳神経外科に興味を持つ外科医達によって、日本脳神経外科学会の前身の研究会が発足しました。しかし、本格的な脳神経外科診療は、海外で学んだ外科医達によって日本にもたらされました。その先駆けになったのが、当院の名誉院長でもあった都留美都雄先生でした。都留先生は北大第一外科に属する外科医でしたが、脳神経外科を学ぶため、1952年(昭和27年)に米国ボストンに留学しました。この時に脳神経外科が、脳だけではなく、脊髄・末梢神経の外科も扱う広い分野であることを知り、神経学を含めた本格的な研修を受けた後、1957年(昭和32年)12月に帰国しました。翌年から北大病院で、脊椎脊髄疾患を含めた脳神経外科の診療が開始されました。1965年(昭和40年)に医療法で、脳神経外科が「脳、脊髄及び末梢神経に関する外科」と定義されて、正式な臨床科として認められました。この年、都留先生も北大脳神経外科の初代教授に就任されました。このため、北大脳神経外科では、厳格な神経学的診察や脊椎脊髄手術



を含む外科治療が伝統となり、日本脳神経外科学会でも脊椎脊髄外科の臨床研究報告が盛んに行われるようになりました。私は1981年(昭和56年)に北大を卒業して脳神経外科教室に加わりましたが、北大病院と関連病院の研修の中で、脊髄損傷や脊髄空洞症、二分脊椎などの脊椎脊髄疾患に興味を持ち、ライフワークとなっています。

脳神経外科手術は、1970年代の手術用顕微鏡(マイクロサージャリー)の導入、1980年代の全身用CTやMRIなどの画期的な画像診断装置の導入によって発展してきました。1990年代以降は、様々な脊椎固定器機(インスツルメンテーション)の開発もあり、脊椎脊髄疾患の診断・手術も飛躍的に進歩しました。私が今年会長を務めた日本脊髄外科学会は、1986年に脳神経外科医による研究会として発足したのですが、その発起人の一人が北大脳神経外科の2代目教授の阿部弘先生(現在は当院の名誉顧問)でした。脊椎脊髄疾患は、人口の高齢化と共に増えており、外科治療も圧倒的に多くなっています。当院では、マイクロサージャリーによる極めて低侵襲な手術から、脊柱の固定を含む大きな手術まで行っていますが、その決定には、神経学的診察と画像診断による正確な術前診断が必須です。現在、8名の脳神経外科専門医と5名の神経内科専門医が常勤しており、都留先生が日本に導入した欧米の神経外科(Neurosurgery)を実践していると自負しております。



当院では災害時の断水の際に近隣の皆さまへ 無償で飲料水を提供します

総務課 課長 宮村 和宏

昨年9月の北海道胆振東部地震の発生から早1年。これまで経験したことのないブラックアウトに見舞われ、停電復旧に見通しが立たない中、当院では非常用自家発電装置の燃料調達に奔走しました。

幸い、当日中に電気は復旧し安堵しましたが、これが数日続けば入院患者さんへの深刻な影響が懸念され、改めてライフラインの重要性について再認識をした出来事となりました。

当院では、平成24年の新築移転を機にライフラインの確保を目的として敷地内に井戸を掘削。地下水を汲み上げて飲料水の処理をする「地下水膜ろ過システム」を導入しました。現在院内では地下水を8割、市水を2割の割合で混合して使用しており、非常用自家発電装置とも連動させ、災害時の停電にも安定した飲料水の供給を可能としています。

このシステムの安定稼働を確認した同年9月、地域貢献の一環として災害時の断水の際に当院が造水した地下水を近隣の皆さまに無償で提供する「災害時地下水供給協定」を八軒まちづくり協議会及び八軒中央連合町内会と締結しました。

大災害は二度と起こらないことを願うばかりですが、万が一の備えとして地域の皆さまの健康を守ることも当院が果たせる役割の一つであると考えています。

「災害時における地下水の供給に関する」



左より(当時)
土肥 弘 八軒まちづくり協議会会長 広川 英人 西区長 三森 康自 理事長
勝海 敏弘 八軒中央連合町内会会長



新任ドクター紹介

心臓血管外科部長 石井 浩二(いしい こうじ)

2019年4月より勤務させていただいている心臓血管外科の石井です。

1985年北大卒で北大第二外科・循環器外科で修練を積みました。1991年から2年間フランスに留学し、パリ第12大学アンリモンドール病院にて多数の心臓手術を経験しました。その後北海道がんセンター(旧国立札幌病院札幌病院)で13年、愛心メモリアル病院で10年間、心臓や大血管、末梢血管、ペースメーカーなどの手術をおこなってまいりました。手術だけではなく心不全や不整脈、さらには肺炎や腎不全などの内科的疾患も多く経験してきました。

このたび、縁があり心臓血管外科を始めさせていただくことになりました。開心術や大血管手術はしませんが、末梢血管(閉塞性動脈硬化症、バージャー病)の治療や不整脈に対するペースメーカーの植え込みなどを行っていく予定です。さらに狭心症の診断(冠動脈CTや冠動脈造影)もおこなっています。当院には下肢のしびれ・冷感、歩行時の下肢痛などで多くの患者さんが受診されます。これらの症状の原因には、脊髄・脊椎疾患以外に血管疾患が関与している場合もあります。また、めまいやふらつきなどで受診される患者さんもいらっしゃいますが、不整脈が原因となっている場合もあります。患者さんにとって複数の病院にかかることなく一ヶ所で診断治療をしてもらえることは大きなメリットと思われれます。

診療を開始してまだ日が浅く、近隣の住民の皆様や医療機関には周知されておりませんが、皆様のお役に立てるよう努力してまいります。



「八軒ふれあい夏祭り」が開催されました

去る2019年7月14日(土)に「八軒ふれあい夏祭り」が八軒ひまわり公園(スーパーダイイチ横の公園)で開催されました。

当院は、八軒地域の病院として地域に根付き、地域を盛り上げるべく2016年から連続4回参加をしております。今年1月には、当院訪問看護ステーション「いづみ」が開所し、ますます地域の方々との関わりが広がっております。

今年の夏祭りは天候に恵まれ、多くの方々、子供たちが夏祭りに足を運んでくださいました。当院は輪投げを出店し、多くの子供たち、親子連れ、当院外来通院患者さまのご家族に参加していただきました。特に子供たちには大盛況で、順番待ちの列が途切れることがなかった程です。

参加していただいたご家族の方や、外来通院歴のある方からお声をかけていただきました。そのひと言・ひと声が励みになるお言葉でした。当院がここ八軒地域の病院であることを実感し、私たち職員のやりがいに繋がりました。

また、夏祭りは八軒商店会の主催であるため、地域商店の方々とも知り合うきっかけになりました。私は、夏祭りで知り合った花屋さんに、プライベートで花を買いに行かせていただきました。夏祭りは地域の人と人のつながりでもあると実感しております。

当院はこれからも多くの患者さま、訪問看護ステーションの利用者さまの健康を守る病院であり続けたいと思います。何かご相談があれば遠慮なくお声かけください。



3階病棟師長
渡辺 亜紀子



スタッフ紹介



3階病棟主任 看護師 木村 亜希子

2015年5月より3階病棟で勤務させていただき、今年で4年目となりました。以前も回復期リハビリテーション病棟に勤務しており、経験は併せて約10年となります。また、今年の5月からは主任として務めさせていただくことになりました。

3階病棟は在宅・社会復帰を目指しリハビリを行っており、長期にわたる入院生活での様々な思いに寄り添い、回復期ケア10ヶ条を基により良い看護を提供していきたいと思っています。まだまだ未熟ですがこれまでの経験を活かしスタッフと協力して頑張りたいと思います。



2階病棟 看護師 芦田 朋子

2012年から当院2階病棟に勤務し、今年で8年目になります。

2階病棟は急性期病棟で、脳血管障害・脳腫瘍・脊髄疾患・外傷など様々な疾患の患者様を受け入れており、急な発症により緊急入院・手術となる患者様も多くいらっしゃいます。

予期せぬ入院により、患者様・ご家族様も「脳梗塞」「脳出血」「くも膜下出血」「脊髄の病気」などと聞いても、イメージも付きにくく「難しい・怖い・これからどうなるのだろう…」と不安な気持ちだと思いますが、少しでもその不安な気持ちに寄り添い、安心して治療を受け入院生活を送ることが出来るようにと心掛けて日々業務を行っています。長く働いていても緊張の日々の連続ですが、チームワークと笑顔を忘れずにこれからも頑張っていこうと思います。



4階病棟 看護師 本村 恵理子

2017年から4階病棟に勤務しています。脳神経外科は未経験で、初めは不安もありましたが、師長、主任、スタッフに支えられてここまで働くことができたと思います。

4階は障害者病棟で神経難病や認知症の患者さまが多く入院しています。完治する病気ではありませんが、進行を抑えるために医師、薬剤師、看護スタッフが協力して治療と看護をしています。これからも、患者様やご家族にお話を聞きながら、より良い看護を提供できるように頑張りたいと思います。

今後日本の人口は、高齢者(特に75歳以上)の占める割合は増加していくことが想定されるそうです。認知症の高齢者も増加します。認知症の患者様の対応は難しいと感じることもありますが、患者様から学ぶことが多くあります。

また、通勤時間が長いので、朝はクラシック音楽を聴きながら運転しています。



リハビリテーション部 理学療法士 藤田 慎也

私は理学療法士として15年目、当院に勤務して9年目になります。現在は2階・4階の一般病棟を担当し、急性期疾患や神経難病のリハビリテーションに従事しています。

現在関わっている事として、パーキンソン病患者様の入院時と退院時でどの様に身体面・精神面に変化があるのかをテストバッテリーを用いて行っています。

進行性疾患であるパーキンソン病ではありますが、運動療法の効果はとてもあると感じています。関わった患者様が入院時よりも退院時に少しでも元気になれる様に、これからもリハビリテーションを提供していける様に努力していきたいと思っています。



医事課 亀田 恭平

医事課の入院業務を担当しております。患者様一人ひとりがどのような治療行為を行ったかを把握し、その診療行為を点数算定して、医療費の一部を患者様に請求、残りを保険者に請求する仕事をしております。医療知識が必要な場面が多くあり、勉強の毎日ですが、自分の知識が増えていくことにやりがいを感じています。患者様と接することはあまりないのですが、医療費に関するご質問等がございましたら、受付窓口、もしくは病棟詰所にてお声掛けください。

外来診療体制

外来担当医表

	月MON	火TUE	水WED	木THU	金FRI	土SAT					
						第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	
午前	脳神経外科	会青 田樹 今吉 村本	会小 田柳	吉小 野柳 阿緒 部方	会今 田村 吉奥 本水	会青 田樹 千葉 保村	今青 村樹	小千 柳葉	小吉 柳本 吉長 内	会田 田葉 千長 内	交代制
	脳神経内科	西緒 方村	奥中 水村	緒奥 方水	奥西 水村	新西 保村	西村	奥水	中村	休診	交代制
	心臓血管外科		石井	石井		石井				休診	
	循環器内科				野村					休診	
	皮膚科		田代							休診	
午後	脳神経外科	遠青 藤樹	小吉 柳野 吉千 葉	千葉	吉阿 野部	今村 (14:00~16:00) 吉野				休診	
	神経内科	新保	中村	大緒 槻方 新保	西中 村村	新保				休診	
	心臓血管外科	石井								休診	
	循環器内科		野村		野村	野村				休診	

受付・診療時間

◆ 午前の診療(平日・土曜日)

受付は、8時40分から11時30分まで
診察は、9時より行います

◆ 午後の診療

受付は、11時30分から16時30分まで
診察は、14時より行います

- ①お電話での予約の申込みや変更は、受診希望日の前日までに下記電話番号へご連絡ください。
TEL:011-717-2131 月曜日～金曜日(11時～16時)
- ②当院の予約は、来院時間を調整するものであり、必ずその予約時間に診察をお約束するものではありません。何卒ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。
- ③予約をされていない場合でも、診察させていただきます。
- ④患者様の症状等によって診察の順番が前後したり、急患の対応等で診療開始時間が遅れることがありますのでご了承下さい。
- ⑤診療医師が不在の時は、他の医師が診察させていただきます。不在日は受付前の掲示板にてご確認ください。このほか、緊急手術等によりやむを得ず診療医師が変更する場合があります。ご理解とご協力をお願いいたします。
- ⑥当院は24時間救急対応をいたしております。急に具合が悪くなったときは、夜間・休日問わず電話連絡の上、いつでもご来院下さい。
TEL:011-717-2131

歯科

院内歯科では、外来はもとより 入院中の患者様の治療も行っています。

診療時間

月・水・金	10:00~13:30	15:00~18:00
火・木	10:00~13:30	15:00~20:00
土	10:00~14:00	

休診日

第2・第4土曜日、日曜日・祝祭日

歯科直通

ナイナイムシバ

TEL&FAX:(011)717-1648

理念

1. 患者様第一を旨とし、患者様とご家族に安心と満足を提供致します。

基本方針

1. 分かりやすい医療情報を提供致します。
2. 病々・病診連携を推進致します。
3. 根拠に基づいた最新の医療を提供致します。
4. 24時間365日に救急医療体制を提供致します。
5. 健全な病院経営と効率化に努力致します。
6. 安全な医療を提供出来るよう職員の安全教育に努めます。

患者様の権利

私たちは患者様の権利を尊重します

1. 患者様の意志および人権は守られます。
2. 患者様は十分に納得出来るまで説明を受けることが出来ます。
3. 患者様は治療方法を選択することが出来ます。
4. 患者様は平等で適切な医療を受けることが出来ます。
5. 患者様の医療上の個人情報は守られます。
6. 検査、治療にあたっては、他の医療機関での説明を得る事(セカンドオピニオン)が出来ます。

Caduceus Information

私たち 北海道脳神経外科記念病院は、

脳・脊髄・末梢神経の疾患を

急性期からリハビリテーションまで

総合的に診る病院です。



交通アクセス

- ① 地下鉄南北線「北24条」駅から中央バス 北72 または 西51「南新川」下車
- ② 地下鉄東西線「二十四軒」駅からJRバス 軒32 「八軒8条東4丁目」下車
- ③ 地下鉄南北線「さっぽろ」駅13番出口を出て右、西武デパート跡地南側から中央バス 西71「南新川」または 西51「北22条西15丁目」下車

医療法人社団 研仁会 北海道脳神経外科記念病院

〒063-0869 札幌市西区八軒9条東5丁目1-20 TEL.011-717-2131 http://www.hnsmhp.or.jp